

特別
子 12
3643
52



十六少子集

謡曲道集解



よのなかれも泣びこ。えうきうてふ
世間 諸人 謡曲
こ乃をすきて。もて何そびうとて
弄 戯
かこあはれ。あまうき。あてよめは
彼此 数多 別

節付 ぬしついでに本よむやうに
きこむより

文句おぼえは
ういひて乃ふに
諷

亂舞さへ満まら
詠

満まらかきほつめ
ミツヨシ

ういひまらふ
謡 舞
その歌を記すと
子

徳林 蘭ノ花

故
梅若敷 即長
昭和四年五月廿日
梅若重 贈
答

Handwritten notes on the right edge of the page, including the characters '目' and '目'.

箱
ひる書に出るはを
写しをる也

モリノ段スミテ

あよん得るあどれ大支度にんざうやう
ちやうどまつてい 茶がよびアおよそやぐら

あまんもつて祝さアてい されがい

あじれ支度をめきついでい 何とあ後

ドていぞ 福人とんアてい 玄徳をみぬ目が

きいてい又まけまの射度を目きいでい

何とあ後ドていぞ 誰人とんアてい

さんば系ハ誰人の申もことく人をい子を

十人もつていぞどあ人の玉をのぐるやうなる娘をい

下あ人ハるりをのぐるやうなるめあごをい

まづハそろてあ持いよ 十人のことを車ざにおい

一口にふぶやうに名を付てい 何とあつけいぞ

先あのとちづて。おとよ。けさよ。つまつ。いるまつ。

ぶんがう。いまごにうつく。ひいつ。ひうち袋。あう
はけてい 何とあつけいぞ 一よりハを舞い



父也女也

母也

父也

母也

父也

母也

母也

忠女也

陸奥國名古曾関八幡太郎
詠歌之圖乃重に書付とす

十のゑきよくこきまてうのり
義家此年
いふこころ
十かほまり
四
福満書



亂舞之人 揚滿



此、あ、こ、ハ、や、ま、と、た、い、少、は、尔、か、ら、國、乃

も、一、改、安、る、こ、ろ、改、得、る、ん、よ

書記

日本

詞

漢

いで

發語也

又、吐、計、モ

厭、乞、

先

イ、テ、

將

イ、テ、

先、々、イ、テ、
將、々、イ、テ、

い、で、を、よ、
い、で、を、よ、と、こ、し、を、い、は、る、

いく

い、ん、ら、ん、
い、く、む、く、

幾

巴、久

幾、許、許、多、幾、回、

幾、久

今、行、末、

い

最

最、度

專

太

い、く、

い

古

往、古

い、つ、も

毎

い、く、

い

著

著、明

揚、焉

灼、焉

灼、然

イ、ヤ、シ、音、時、ハ、ツ、ト、唱

い、く、ま、り、
生、藥

生、活

いくばく

幾イシダク

幾許

許多

いそがし

忙イソガシ

匆忙

いたたま

痛イタマ

勞敷イタマシ

惻憶イタミ

いたわろ

勞慰イタワロ

いまやう

時粧

いかに

孰謂イカニ

いみじく

繁敷イミジク

いぶせ

愠イブセ

いみじく

繁敷イミジク

いふせ

愠イフセ

いみじく

繁敷イミジク

いふせ

愠イフセ

いみじく

繁敷イミジク

いふせ

愠イフセ

いみじく

繁敷イミジク

いふせ

愠イフセ

いみじく

繁敷イミジク

いふせ

愠イフセ

いみじく

繁敷イミジク

はやて

暴風ハヤテ

日本紀ニ

迅風洪濤

通音也

はなやう

聲花ハナヤウ

花麗ハナカ

はたて

渥ハタテ

はたと

必ハタト

又

はかりこ

計策ハカリコ

ばつと

發ハツト

又

はかなく

無計

にほふ

餘光ニホフ

白薰

にわか

俄

ほのぐ

天明

ほの

ほのぐ

下名ナシ

又朗

ほのぐ

下名ナシ

○ほのぐ

○ほのぐ

「ほのう」 耽カウ風フ 風ホウ字カニ 側ホカ 仄ホカ 髻ホカ 髻ホカ

「ほのめく」 浮ホウ誘イ 常住 鎮常 終古 邊 頭ホトリ

「ごごーなへ」 長 鎮 鎮常 終古

チナラ 野合テゴゴーノトモ云

「ごごとは」 常住 鎮常 終古 年頃 年來

こごんニツラ中野各シテゴゴトノモ云

沈奇 長ノヲ系十四 流の玉乃なにい思ハ流ノゴゴトハヨキとんことを此こそ

「ときめく」 時勢 時明 風勢心動也

「ごかく」 兔角 左トモ右カクモ 関カク聲

ごもかくも

又カナタコナタトモ

「ごきれ」 聲 関カク聲

「ごぼそ」 扉トボソ 肩トボソ

ごびら

「ごくく」 疾々

「ごうく」 鼓トウ登ウ々 鼓トウ冬ウ々同

○ 鼓ハ波の音 ○ 鼓も冬鼓ハごうくと

「たうく」 溜々 踏々 ○ 呂水の浪ハたうくと ○ 足ぶこハたうくと踏

「ちご」 些チ二ニチト 些チ字チ狂

「ちぎれ」 ちぎつて

ちまゝ 岐 巷 街巷

ぬさ 幣ヌサにぎてヒ 青和幣 白和幣

ちちこち 遠近 ちか 可笑

ちりふ 折節 折境 境節 ちめささけぶ叫喚

おーなべてメト呼 凡ナテヒ 押靡 難並 自

なべて、おーなべて、上更也

おのづから 所思者

おほかさ 大方 大駁

おもんみる 以 愜 おもほゆる 所念 可念

おびく 夥 侈 おもつな 鬱悒

おきつ波 沖津 津ハ心ナ助音ナレ おもひの玉 數珠ノ事ヲ云

おろまひ 浄座 おもひやる 想像 還跡

おぼろけ 小縁 おもな 無面 無面目也

おもはゆ 面慚ガンオモハユ 覷テン面慚也 奥モホテルハツル 奥モハユシイツル おもてぶせ 同意也 面伏

おごろ 荊棘ケイキヨク ちぢがれ 零落

Handwritten notes at the top of the page, possibly bleed-through from the reverse side.

僅 纒
わづら

女の自
童ト書
わづら
わづら

わちやぎ 若榮

かみかき 神籬

かほご 筒程 又 个程 个ハカズ也

かごと 假言 託言

かねこと 豫言

かうよと 如此 斯

かひひ 甲斐 借 假字也

かひづく

わりなく 理無也

かほ 如斯有

かやう 筒様 又 个様

かなで

かねて 俦

かなで 俦

かねて 豫而

かこぎ 神寂

かやく 赫奕 暉 輝

かばめ 倭腰 屈膝

かりそめ 苟且

かえす 交

かぎ 花をかぎし 頭挿

かぎ 花をかぎし 毬羽

かける 翔鳥 驅馬 騶馬

かけまく 由所

かこぎ 賢 畏

かどで 首途

かばうり 只且 斯斗

かたしく 片敷

かいまこ 垣間見

かすならぬ 不脛 脛

かほむせ 顔 容止 かい 峽 山間也

かひぐ 離々 万葉に「かひ」といふ離字又疎字を考てうごくまをさかる事により

かげろふ 炎 陽炎 又 遊 綵 かきけむ 搔消

かこち 欬けとて月やおをともいふからかちかちなること 神託 あひ法作

かなこち 噴 嚔 託 彼方此方 かたはら 傍 側

かづき 被 又 潜 カウ 肩ニ カスゲル也 かつがう 渴仰 かつく時水と欲まがや

かつぐ かついで かつが 離支

かつむと 蹴 踏 記念 屈仙遊 信 白氏 文集 又 筐 是ハ籠ノイ也

かたこ 記念 屈仙遊 信 白氏 文集 又 筐 是ハ籠ノイ也

よるべの水 緑水 又 よるべなきト云モ 縁無 ヨルベナキ

よーや 縦哉 因イヤ よそほひ 儀 行粧 又 粧 シヤウ

よー 所據 又由來 尋常 無因 無因 よも よもあふり

よのつね 尋常 無因 無因 よは 夜

よろく 徒倚 徒倚 凌 登 凌 登 躍 躍 よなく 夜々

よろぼひ 透 迤 透 迤 迤 俗字ス 用 用 よぎて 除 又徒倚よろぼひ

よもすづらよすから 終夜 葉門ヒツスウ 又 苜蓿ヨスレビト

よだつよだち 身毛 又 豎 よつひき 能引 又 強引

たぐぐ 直也人スビト 又 徒人タビト 又 凡人フタトヨム 也

たをやめ 婦人 手弱女 たるをを 風流男

たぐずこ 彷徨テキ 神代卷 又 行チヨウ 又 俳チヤスラフ

たごる蹴躑 又 躑躅ヘラ躑 迷着メリツク たちやせらひ 躊躇

たをやり 窈窕メラマカ 又 窈窕ニヤビヤカ 又 比ナニメシ

たがたが 誰が也 たるたる 誰ぞ也 たるたる 誰ぞ也 たるたる 誰ぞ也 たるたる 誰ぞ也

沈奇 色よりも多しそいれとあもほれたが神より宿の梅ぞも

たまたま 適テキ 邂逅ウツライ たそくれ 黄昏

たべ 賜 たびたまへ 賜給也 たるたる 誰ぞ也

たぐよひ 漂 解逅メサカ 其方

そのかこ 當初 往昔 其方

それさへ 夫副 万葉兼並等の字をさへとみておそりゆこと云こ

そこい涯 彼ヒ 其方

そごろ

又すべらFE

坐 肅 不覺 不意 無端 慧ソゴ

そこつ

卒忽 踈忽

そは

岨ソ そはづソひちどソ

そびえそびえ

嶺キ 從山

寺山

そは嶺 嶺ソ 嶺ソ

歌ソ 報枕 耳ソ

そらめ

睜視ソ 視ソ

そこ

些サ 些サ 些サ

そよぐ

戰ソ

風草木を吹てまびき動く也 又さやト云時ハ言ハの事也

皇太后宮大夫俊成

浣奇 風そよぢなられ小河乃夕差ハ又そぎぞ夏乃志る一ちりふ

そくぐ

澍

洒ソ 洒ソ

みくづ

底水ソ 渟ソ

つかのま

暫時

ハ云津抄ニ流ク其まハたニハ草をかりて つらぬほどいり時のる也

つら 列ソ 行ソ 物の

つて

傳 風つて 又 次手

つら

息安

つぐ

熟ツ 熟ツ 又 一ツ

つれぐ

徒然

つらく

倩

ついま

愧ソ 意ソ 欬

つれあ

強面 難面

つたな

拙

つなで

牽紋 舟ソ 曳繩

又 綱手 舟ソ 引也

つめ

縮ソ 縮ソ 縮ソ

ねらい

伺候

万ソ 葉ソ

祢良比

狸

なみわる
列居

なみわく

喃々

なべて

凡 おゝあて
上男各

なごり

餘波

なにおふ

名負

なまめく

媚 媚 アダ 媚

なす

生 芒の
茂

なすほし

鬱結 氣の

なつ

懷 愛藝

なご

何 ナニカ
ナニカ

なにかせ

耳從

ながらへ

存命

ならひ

風流 俗

なすぶ

掬 水を結糸

絹 コウ
スエール

天紹 スエール 託 トク

むつご

睦言

むせぶ

咽 イン 啞 ウツ 啞 ウツ 啞 ウツ

むずと

無手組

むか

虚空 キョウコ

うたて

薄情 又疎薄

うちとす

又渡を奉

うらやま

羨

うちつけ

卒介

うつろふ

衰 映 チイ 移 シ 色 シキ

沈奇 チシキ 花の色はうつろはるをうつらに我身せぬちなるめせ 小野小可

沈奇 チシキ ちるとつてあるべきものを梅はむうたて白ひの袖まはゆる 赤井法印

うき

憂 ○うきまじら ○うきとんしせも憂 ○うかりける ○ものうき

うき世

憂世 浮世書誤也

うご

疎 おろそかに

うかれ

浮石 却

うたぐ

轉寐

うたが

あはれ 冠辞也

うしろめたく

影護 心元ナキ也

うらは

浦廻

うしろ

巳刻 刻三カケル 但巳刻満ルカ

のこき

暴風

のもせ

野迫

くもる

雲居 天雲

くねる媚

憂 俗

くま

委精 月の

くろ 苦困

頰 頰

くま

隈 又路の山の

阿 水の曲 河の隅 海山

くらむ

眊 目の又

くものはたて

雲涯 又月のま

やさ

優艶

やたけ

猛 猛心

やごとなき

止事無

やつし

憔悴

徘徊 ヤチモトホル

跼蹐

頓即

應 俗字

やうがう

影向

やつし

省身

まのあさり

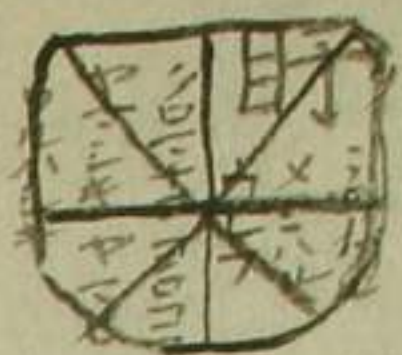
面廷

泪下

まこえ

見

またぎ
肝 カン
ナカキ
メシロシ



旬 ケン
メバリ
メウシ
メシキ

ましぐ 希人

まじる 圓居

まじく 隨意

まぬれ 免 惑心

まして 増

まごろむ 目眠 少眠

まじき 未 いまじと畧也
いまじき也

まつさき 真先

まつすぐ 真直

ますみの鏡 十寸見鏡

まつきがま 真逆 真倒

ます鏡 十寸鏡

まさきのりづら まさきづら 去榮草

まらか 去同
去甲
去額

げふ 實 現 ゲニモ

けいたる 化

ふり ケイリキ 年月を
經歷 シヨウ
舊 ふるし 古故舊
〇年方 〇星おなり 〇方ちる方

ふるまい 行跡 舉止 シキハリ 居止 振動 又 威儀

ふしまろび 宛轉 蹉跎 小なばし 舷

こごし 今茲 シジ 今年也 今のたび 今般

このごろ 頃日 頃年 ころほひ 頃 キヨウ ほん言系

こいかさ 以往 ころかこ 此彼

このもかのも 此面 彼面 かくれ 木隠

ころもの玉

法華經

こハ 是ハ中畧也。こハそも こハはんに 月 月ハ 今茲

こづれ こづれ 又 憧 憧 又 慕 慕 字歟 こづれ 舟 舟 漕 漕 兼ても云リ

又 こづれ あこがし あこがし と云も 因ト奉歟 又 浮舟の 浮舟 ぶがれり旅を云のぶ乃 又 ほまれいさり火こがるを和之の 又 親く 親 焦 焦 火に 火 たり

あおもハ澤の雲も我よりあふがれ出る玉かとぞ又は 和泉式部

ごさめれ 俗言ニ云 惟谷 で内ならふト云

えに 縁 えならず 殊勝 又 えぞ えぞ 又 え 眞字 未考得

えい也 曳 えい 又 え 眞字 未考得

あまつひつき 寶祚 あけの玉がき 朱玉 朱玉 離

あきらか 明 著明 灼然 灼焉 分曉

あらた 新 著炳 灼然 灼焉 分曉

あをれ 天晴 哀とハ異也 あつれ 天晴 適

あまねく 普 博洽 あまざかる 鄙 鄙 冠辞也

あまぎるる 又 從耳雪 又 あす 翌立

あま

あま 天降

寶祚

朱玉

哀とハ異也

博洽

又 天降

翌立

ありほけ 農明

あひまほふ 逢合

あたら 可惜

ありさま 形勢アリサマ 分野ノ

あへ 敢アヘて 無ム敢ガ

あはばの 曙 黎明

あきしーの 外ソトと云ハ冠カ辞ジ也

あぶ 化 虚

あぶ波。あぶ心。あぶしことば。あぶし世。あぶし野の意

あからさま 白地

あれ 彼字カ 又 彼方カ

ニッ 共 俗言なるべし

○あれいと足ぬ就多尾の寺。あれはそれと
○あれこそ大系也。○あの梢乃このことそ
○あの強力に通るぬぞあれはこちより留てい
○あの強力うちと。○あの松系に流りて
○あの名もちる本にてい

あなうかなうこなき 彼方 此方 あやふき 危

梵音 たう集十七 あそく出る月もほる式是曳乃山のあなこもきくむへなり
日 あう流て月のかくまふむとハあなこおむてそ急かりける

あさま 浅間敷ま 助音マ 助音マ あきし 惘ウ 忙然マシ

あたり 邊 側 傍 あかつ 関ア 伽カ 水

あく 飽

さくんば させうにシ 約ヤク

さるほごに 爾程 去程キョウ 俗也

さくしんば さあはば 中畧チュウリョク

忙マシ 忙マシ 忙マシ

ゆきかつか 往反 往交 夕榮

ゆきごういしぎきなどくも云 白木綿 木綿付鳥 行方 将来

ゆか 懐 由々敷 勇々敷

ゆかり 所縁 由縁 動 震揺

めで 感 めでたまひ 希見

めだれ 目無顔

みやま 深山 大山 何をきてもみやまト讀ム 大字ヲミト讀ムハ貴トミト云也

みそぢ三十一ひともト一字

みかみの水 清溝 みはし 清階

みやび 艶 エウテウ又 窈窕 閑雅 見え 見

みちく 充滿 みよしむ 身入

みづくき 筆と云シ冠辞シ 水莖 みあげみおろす 向上向下

みごりこ 眼女子 又 髪 シヤカ シメガフ 造

みちちるべ 郷導 みなれざほ 水馴棹

みのけよぢち 身毛弥立 又 又立 ヨメツ

三車 法華經

志なき

且千ニセン品科

志づく

閑々ケンケン徐々ジュジュ

志ばら

暫シブシブ少間シブシブ少且シブシブ少焉シブシブ頃尅シブシブ遙計シブシブ

志かも

而尔然

志くいな

如シブシブ

沈奇 右冬集二 三輪シブシブ志かしかくはく去鹿シブシブ今シブシブ志まぬもやさくシブシブんシブシブ

○志くもシブシブ志づらくのシブシブ 而シブシブ ○志くもシブシブ女姓シブシブの内カシブシブとシブシブて

志るき

著灼

志づえ

下枝

志いシブシブ盲シブシブ

沈奇 右冬集一 梅乃シブシブ白シブシブふシブシブまシブシブへシブシブらシブシブくシブシブぬシブシブやシブシブにシブシブいシブシブれシブシブとシブシブ志シブシブくシブシブそシブシブもシブシブらシブシブおシブシブ

志も

折シブシブもシブシブ時シブシブもシブシブ

志らまろ

冠辞也シブシブ

志のめ

東雲

志たぐり

瀝シブシブシシブシブ冬シブシブリシブシブシシブシブツシブシブクシブシブモシブシブルシブシブ

志うぬい

筑紫シブシブトシブシブ云シブシブシシブシブ冠辞也シブシブ

志んぬ

嗔恚

志こざ

爲業シブシブ

志かこ

駢

志さい

仔細

志もこ

杖極シブシブ又シブシブ笞シブシブ

志ほし

雨沾

志ぼむ

甘女シブシブ又シブシブ凋シブシブ

志をり

標折

志ごろもごろ

葛城山シブシブ志もシブシブハシブシブ異シブシブ也シブシブ標シブシブ字シブシブ也シブシブ

一も、言也シブシブ 折時シブシブトシブシブ云シブシブトシブシブ

かへるト云シブシブ 又もシブシブト云シブシブ 冠辞也シブシブ

九十九

九十九

○ 九十九

九十九

九十九

九十九

九十九

九十九

九十九

九十九

九十九

九十九

はこ

礎ト

- まごころてはこある
- 出帆のならひてはこまであるぞ
- 土しりかつてはこおまにむすぞ

ばつ

潑ト

- げ川浪よむろと放せば

ほつ

哮ト

○ 氣を吹也

どう

倒ト

肩ト

- 五馬があいにどうと落
- 二足があひまどうと落るが

じつ

咄ト

- 一同にどうぞほめたりる

ち

些ト

- あの強カがち三人に似るこ

ちよ

微寸

一寸

一寸

- さらばそと舞ふびるこ
- そと物説あてせせられ
- そと見せせ

そ

些少

そのこトイハガ
ツメル
密ニト云ニ似タリ

つ

躑ト

近奇兒

- 猪早太はつこりて

躑ト

平く行

そつこ

此二少
○さらばそつこ舞ふびるよそい
○そつこ物語あてせせやれど
○そつこ内見せぬ

そつこトイハバ
密ニト云ニ似タリ

つつこ

踏ト
近奇兒
○猪早太はつこよりて

踏
正行

むつこ

咽
むせびむせが
むせむんとれる
樂

のつこ

○梅ウ喜にのつこ目れ出るふ路りな
世間ニ暖簾ト云物あり
のつこハあたかナルト云意也
芭蕉な解

くつこ

闊ト
○追手かくらこ開けたらハ

くつこト云モ同シ

ぐつこ

屈突

やつこ

漸
○やうくゆきゆはに
○舞楽やうく時とて

ふつこ

不圖
○熊野末詣のわにふこ登りてハ

ふつこト云べきを俗言ニふつこト云故ニ爰ニ出ス

ふつこ

○ふつこに舞ゆるまどくハ
○命をころたふつこありまどい

さらり

颯ト
○竹ころりあーさつこ甘耳

さらりト云モ同事チダバ
さらり

○けい陰の人やうにさらりこ回居して

ヤシト云べきを俗言ニ云フト云故ニ爰ニ出ス

あつと

○あつと、此處のまぐぐい
の命をさるたつと、こありまぐい

さつと

颯ト
○竹をさるしつと、草

さらり
ト云モ同、事なるべ

○けい陰の人せびにさらり、同居して

がつと

雑ト
俗言ニ鹿抹たる品物をがつと、なるト云
是也

きつと

佐ト
○きつと案じ出、なるすれ

ぎよつと

愕然
驚シ見

きやつと

噤
シハノト
ワラフ

じつと

堪
スハル
不、移見

ひよつと

剽
カコシ
ケル
ハサス
全ッカリ字也

ずつと

寸斗
○ずた、くに切、まして
オ斗

ひつと

混
ト
混物ト云、物の多き事

ひしし
必至必死ニ何れ

○兵具をひしし、立置まひハ

俗言ニ、うまじつ、ひつたりト、建よまぐぐ云ハ
是也

かつぱど

ツメル

ちらど

敬自 ちらど
見る

○ 持る 兜をか^かい^いこ^こ投^てきて

○ 舟より かつ^かい^いこ^こ落^おち^ちの

○ 切^きて かつ^かい^いこ^こ粘^ねび^びける^ける^るが

おしり

音

○ ちまき
○ ちまき
○ ちまき

どろく

鼓々々
鼓登々

○ いづちを鼓はどろくと

どろく

滔々 ○ 呂水の波はどろくと

流水
さかまき
ちまき

たうく

踏々 ○ 足ぶいたうくと拍子を揃へて

たうく

丁々

○ 白を夫が小忌の袖よりこちや
笏拍子たうくと
○ 伐木たうくと

ほろく

○ 雨をおうて降るあし者い
ほろく
○ 降る雨のあし者ほろくと
わく道乃

どろろ

カウ
トボロン
ホトミル

○ どろくとぬこどろろかす
○ どろくとぬこどろろかす
○ 駒とどろろとぬこどろろかす

どろと

倒
ドウ

○ 両馬がほいほいとどろと
○ 二足がほいほいとどろと

ほろく

- 雨をおうして降るるあしき、ほろく
- 降るる雨のあしきほろくこほりこわく道乃

ごぼろ

カウ
トッソ
ホトハシ

- ごぼろくとぬごぼろかす
- ごぼろくとなる時、
- ごぼろくとぬごぼろし
- 駒とごぼろとぬごぼろし

どうと

倒
肩

地音也

- 両馬がほいほいどうと
- 二足がほいほいどうとあけが

そよぎ
そよぐ
そよぐ

セン
戦

風吹音

- そよとの伎もきかで
- 秋のそよぐぬる里乃

澁音

風そよぐなら井河の夕暮みそぎど夏乃あるし形りきまる俊成

又
そよぐ

風のそよぐ也

颯然サッゼン 此字ヲ亮て書ユリ

きり、

- 妻戸をきりこおし開く

からり

- うち兜よからりと射る

ばらり

- ばらりからりからりばらりこ

するり
すらり
すらり

すべろト云意カ
志カラバ

凜ノ字也

- 両が丸をすらりと抜もち立向い
- 大を刀をすらりと抜てうち大カカメケ

からり

○うち兜よからり射る

ばらり

○ばらりからりからりばらりこ

するり
すらり
すらり

すべろト云意カ
志カラバ
淳ノ字也

○ほぶ丸をすりこ抜もち立向い
○大老カをすりこ抜てうち大カ

ゆり
ゆるぐ
ゆらり
ゆらり

震

○舞の袖こそゆるぐなま
○いさめる駒こゆらりこうち系
○ゆらりこ出るあり候

はらり

○涙をはらりこまびいて

さめぐ

慘然
雨々
淫々

○さめぐこ泣きふ痛ろーさよ
○さめぐこ泣きふ餘心の袖も泣き

より

時々

○よりこ彼蒼を期をといふ

つら

備
又一々
熟

○それつらくおもんえんが
○つらく世間の幻相を親をるに

あら

粗

○あらこ時節をかんぐ来るに

みちぐ

充滿

- 其間三里が極みちぐたり
- 異香みちぐて人よ薫ド
- 天地をひがみちぐたり

きぬぐ

衣々

- もきぬぐに引を船々
- きぬぐまれば恨もな

さんぐ

散々

そよぐ

颯然

徐々 徐々風そよかせ

そろり

徐々 ちがなるヲ云

むらぐ

簇々

ヤジリハラガル
コメケニサ

徐々
ユルクニク
オモハロ

徐々
アキラカ又子リ
アケボノ

さうぐ

躁々

サワグ スム
スミヤカウゴク

奈良の都をねるたり子を

べんぐ

澆々

ベシム
ケガレ
ニゴル冬ツ

流のゆるき見
すてゆるしくなる事ニ用也

きだぐ

段々

物の切をなるヲ云

ちらぐ

霏々

ヒラメク
アメトク

ろく

碌々

非智人ヲ碌ト云

べんく

流ベシ々
ケガレ
ニガレ

流のゆるき見
すてゆるいなる事ニ用也

きだく

段ダン々

物の切セとなるヲ云

ちらく

非ヒ々
ヒラメク
アメトフ

ろく

碌ロク々

非智カシコカラザル人ヲ碌ト云

うっかり
うかく

虚ウツケ々
虚ウツケ々
虚ウツケ々

信州ノ住人俳諧師一茶サカ之句ニ
々々から日本ニかりカゆるカゆるカにカ接カよ
是ハ直字ノヲカろクトカ讀ム
都テ物ノ真直ニ居ルト直ニ
置ト云ハ此字ノ書也

だらく

墮落ダラク々々

ふらく

浮ウキ々

まぢく

交睫マヂク

睫マヂク
一マヂク
ニマヂク
メマヂク
シマヂク

1875

1875

- 水野の日記
- 水野の日記
- 水野の日記

